

豊かな福祉社会の実現に向けて

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 会長 長山 洋



新年おめでとうございます。皆様には、健やかに新年を迎えられたことと存じます。心よりお喜び申し上げます。

さて、東日本大震災津波から8度目の新年を迎えました。災害公営住宅への入居、高台造成地での住宅再建も進み、被災した方々の多くは、新しい環境での歩みを進めています。

しかし、平成28年に岩泉町など

を襲った豪雨で被災した方々も含め、いまだ応急仮設住宅の暮らしを余儀なくされている方々も多く、公的支援とともに住民同士で支え合う地域づくりに一層の努力を進める必要性を感じております。

昨年も多くは、災害が日本各地を襲いました。大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震のほか、大型台風の襲来もありました。本県においても、新たな災害に備える必要があります。災害ボランティア支援の体制づくりや災害派遣福祉チームの組成など、これまでの災害対応経験を踏まえた福祉関係者の協働の仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えております。

また、介護や保育、障がい者支援等の社会福祉事業は拡大を続けていますが、これら福祉サービスを支える働き手の確保が喫緊の課題となっており、福祉人材センターなどの事業を通じ、処遇改善やキャリアアップの仕組みをつくり、働きやすく、働きがいを感じられる福祉の職場づくりを進めていきたいと思っております。

国においては、全世代型社会保

障を目指す取組として、働き方改革や地域共生社会への取組など、幅広い制度の見直しを進めていますが、同時に私たちは、真に支援を必要としている方々の安心・安全が、今日的な福祉制度で十分であるのかを改めて顧みることも肝要であります。

地域社会に目を向けますと、「制度の狭間」や「社会的孤立」、「生活困窮」といった課題が依然として存在しています。この複雑で多様な課題に取り組むためには、行政はもとより、社会福祉関係者、民生委員・児童委員、NPO、ボランティア、そして地域貢献に取り組む企業等による協働連携を深めるとともに、住民主体の支え合いを支援していかなければなりません。

このような状況を踏まえ、関係機関・団体の皆様とともに、本会の基本理念である「豊かな福祉社会の実現」に向け、各種の事業に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全国社会福祉大会開催

平成30年度全国社会福祉大会が11月22日にメルパルクホール（東京都）で開催され、厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会の3団体から、多年にわたり社会福祉の発展に功労のあった方々が表彰されました。岩手県からは、30名3団体の方々が表彰され、全国社会福祉協議会会長表彰・社会福祉協議会優良活動表彰の受彰者を代表して、全社協の齋藤十朗会長から、盛岡市社会福祉協議会の川村裕会長に、表彰状が贈られました。また、式典後「ダウン症の娘と共に生きて」と題し、書家の金澤泰子氏の記念講演が行われました。

○被表彰者30名3団体の内訳「厚生労働大臣表彰15名2団体、全国社会福祉協議会会長表彰13名1団体、中央共同募金会会長表彰2名」



被表彰者の皆さん



(左) 齋藤十朗全社協会長
(右) 川村裕盛岡市社協会長

平成30年度全国社会福祉大会式典

